

発行所

曹洞宗宮城県宗務所

仙台市泉区市名坂字檜町169-4

TEL 022(218)3801

FAX 022(218)3803

e-mail:sotou-miyagi@road.ocn.ne.jp

発行者 所長 小野崎 秀通

宮城県宗務所報



(遮那山 長谷寺)

新春を迎え一言ご挨拶申し上げます。

昨年も宗務所行事や諸会議、各寺院慶弔会などと勤めさせていただきました。年に二回の現職研修を始め、護持会・本山研修、寺族会、婦人会、管区集会、徒弟研修会、梅花流研修・大会等々行事のない月はほとんどなく、職員共々駆け回った一年であったと回顧しています。

また、宗務所維持運営に関しては、各教区長老と協議を重ね、長期的に安定した維持管理がなされるよう、ご相談して参りましたが、所費値上げやむなしという結論に達し、三十九年度より一点三円の加算と宗務所宮繕基金積立一点十円の了承がなされましたので、各寺院様にお願いいたします。ご理解とご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

本年も昨年同様の諸行事が持たれますが、各教区長老師始めとして、各ご寺院様、関係各位の皆様のご理解とご協力がなければ、諸行事遂行も叶いません。特に本年七月十一日に予定している宮城県曹洞宗檀信徒集会の大きな行事を控えております。すでに実行委員会を立ち上げて計画を進めており、曹洞宗檀信徒の自覚と信仰を確立していた



年頭の御挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

小野崎 秀通

できたく開催されますので、県内全カ寺の檀信徒にご参加していただきますようお願いを添えをお願い申し上げます。

昨年十一月、佐賀県宗務所主催の第二十三回曹洞宗佐賀県檀信徒大会に講師としてお招きをいただきました。「生活の場に潜む災害といのち」のテーマのもとに八百名を超える檀信徒が参集して開催されました。

この大会を開催するに当たっては、護持会役員が積極的に参画して準備がなされていると聞きました。一昨年の十一月、宮城県青年会主管で、仙台サンプラザを会場に東日本大震災物故者慰霊法要(南こうせつ氏出演)を開催された折、佐賀県護持会研修の名目で四十名が来県し参加されましたが、今大会の計画内容に、参考とされたと聞きました。

二年に一度の開催で、四十五年前に発足した伝統ある大会です。さすがにスタッフ皆さんも慣れて、県内一丸となった活動の様子に感銘を新たに、宮城県もそう在りたいものだと思感して来ました。それにつけても各寺院が常々の教化を怠ることなく勤めることが大事かと思えます。

人権コーナー

人権擁護推進委員会現地研修について



第十八教区 瑞満寺住職 松好大幹

七月十三・十四日に平成二十九年
度の人権学習研修を「原発における
現状」―被災復興を考える―をテ
マに福島県に赴き行われました。東
京電力福島第一原子力発電所の事故
による福島県民に対する人権差別問
題に対し、南相馬市の同慶寺、岩屋
寺、福島市の長秀院の方丈様方に講
話頂き、現状を視察致しました。福
島県の皆さんは今、原発事故の為
に人権侵害と風評被害やいじめなど
差別に苦しんでいるという事です。
国（政府）の対応不備から通常では
考えられない被爆量により多くの被
害が出てしまった。その事が今なお
福島県の人々を苦しめているとの事
でした。昨年、南相馬市に帰還許可
が出た際にも、帰って来る人、帰る
事をためらい戻って来れない人、そ
れぞれ苦渋の選択の中で、放射線の
脅威に晒され怯えつつ、現在の日々
を暮らしているのだそうです。除染
も一人の人間の一年間の被爆量の基
準とすべく、その為何回も繰り返し
行わなければならないとの事、また
除染した汚染土を処分する中間貯蔵
施設やそこへ運ぶまでの仮置場も建
設中で処分が追いつかず、各家庭の
庭や畑に仮置き保管を余儀なくされ
ているとの事です。地域社会の崩壊
や地域の様々な絆が分断されていく
事の問題、高齢者はもとの場所に戻

りたい、避難している所から故郷や
家に帰還し、元のように皆で暮ら
たいが儘ならぬとの事。若い世代は
子供と避難し、このまま避難した場
所で暮らしていきたい、不便な所
に戻りたくないとの事です。就労生
活は今の職場を辞めて無職になる訳
にはいかない。しかし本当は避難し
たいと考えている人も多数おられ
ようです。福島の人々の中で様々な
意見衝突があり、孤立・自死・生活
苦・離婚・鬱症状など様々な問題
を抱え、日々苦悩しておられるのが
現状のようです。最後に、御方丈様
のお話の中で今も心に残った言葉
をお書きします。「地球の事を『母なる
星』と呼びます。その地球を単なる
資源とみなし、このまま過して行け
ばいずれ人間はそう遠くない将来、
終焉を迎えるでしょう。」（同慶寺様）
「檀家さんで高齢の女性の方だったの
ですが、『故郷に戻りたい』と、自ら
命を断ち、御先祖様の眠るお墓に入
るといふ道を選ばれました。」（岩屋寺
様）福島に残っている事も正解。福
島を離れて戻らないという選択
をするのも正解。戻ってくるという
選択も正解。この先、どのような生
き方を選択するのか、自分や家族、
福島県の未来を模索しながら現実と
向き合い生きていかなければなりま
せん」（長秀院様）

青少年教化員の活動について



第二教区

東雲院 副住職 堀越正知

宮城県の教化員活動は、総会、布教師講習会、徒弟研修会、坐禅会の企画
運営、ビーブレイブの公演と多岐にわたっています。

その中でも中心になっているのが、ビーブレイブという劇団の公演活動で
す。劇団といっても素人の集まりなので、スキルとしてはそれほど高いもの
ではありません。

ビーブレイブを直訳すると「勇気を出そう」という意味ですが、劇団の内
容としては「いじめはやってはいけないこと」ということを、子ども達に少
しでもわかってもらえるような構成にしています。

いじめは、一般社会でもやってはいけないことですが、私達は仏教という
宗教を背景に持つ劇団ですので、仏教的観点からも、「何故いじめはいけな
いことなのか」を説明できた方がいいと考えています。

釈尊は誕生後すぐに「天上天下唯我独尊」と宣言したと言われています。
これは「ひととはみんなこの世で唯一の尊い存在だ」という意味だと理解され
ています。つまり、自分は勿論のこと、他の人もみんなこの世で唯一の尊い
存在だということになります。

従って、当然に尊い存在が尊い存在を傷つけたりしてはいけないわけです。
実際には、こういう話を子ども達にすることはありませんが、この様な観
点から説明することは可能であると考えています。

ただ、この私達の活動の意味が、少
しでも子ども達に伝わってくれたらうれ
しい限りです。

ビーブレイブの公演は緑蔭禅を中心
に行われています。現在は今年の公演
に向けて新作の制作に取り組んでいる
ところです。

ビーブレイブは今後も子ども達の笑
顔のため、活動を続けて参ります。こ
れからもご理解とご支援の程、よろし
くお願い申し上げます。



合掌

平成二十九年第一回現職研修会

平成二十九年七月三日

於 第二教区林香院

「管長告諭について」

第十八教区 松岩寺副住職

佐藤 泰澄



この度の研修において「管長告諭について」の講説を、特派布教師の奥野昭典老師より頂きました。まず始めに本年度の告諭は、四摂法の「同事」のお諭しに学び、「ともに願い、ともに寄り添い、ともに歩む」願楽を進めます。と示されているところから、前年度とほぼ変わらないという旨をお話されました。又、奥野老師は本年度の告諭を頂戴した折に、あなたはしっかりとこの「同事」の生き方を生きているのですか？と問われていたような感じがしたとお話しされました。

これは私自身もその通りであり、しっかりとしなければならぬとい



う気持ちになりました。「同事」の学習をして、たとえ知識として知っていようと、それをしていないのでは意味がない。重要なのは知ることではなくて行うことであると改めて考えさせられました。

「同事」を理解し説いていくということが大切で、自分の日常のあり方が大切であると説き示して頂

きました。

告諭には、無常迅速の人生にあつて、一仏両祖のみ教えを相承し（つげつき）、み仏とご先祖の前で姿勢を調え息を調え心を調べて静かに坐りましょう。大慈大悲の坐禅はおのずから自他一如の「同事」の力になります。日々、他を思いやり共に生きる菩薩の誓願を實踐してまいります。とあります。

無常迅速である人生と肝に銘じ、真摯に修行をしていき、学び、実践していき、示していくことで、檀信徒の方々や世の中の為にもなっていくのではないのかと思いま

現代社会の人権侵害

第六教区 西圓寺住職

石龍 英紀



この度の現職研修会において、講師の渡辺祥文老師より、時代の変遷に伴う数多くのハラスメントが存在することを学ぶ事が出来ま

した。

ヘイトスピーチ、ヘイトクライムなどの他者に憎怨を抱く差別、自己の優越感を得るために意図的、無意識に行う差別など、我々が認識していなかったハラスメントが数多く存在している事。又、国外に眼を向けると、宗教対立においてや、イデオロギー対立における差別、民族間の差別や暴力等々。立場や歴史的背景などにより長い時間をかけても解決を見出すことの出来ないハラスメントがあるという事を再認識させられました。

国内における「ハラスメント」という単語を調べてみると、数十種類のハラスメントと多岐にわたっています。学校、職場、近隣、はては家庭内と現代人が常にならなかのストレス、外圧にさらされている事が見て取れます。島国の国家、民族として成り立ってきた日本も明治以降の文明開化により、生活スタイルの変化、思考の変化など、個人を取り巻く環境がめまぐるしく変化してきました。結果、著しい変化の過程において追いつく事の出来ない心の一部がストレス、ハラスメントといった形で表現されているかのように思われます。

様々な差別において、根底にあるのは他者を阻害しようとする行いであると思います。管長告諭に



ある「ともに願い」ともに寄り添い「ともに歩む」という「同事」の心を常に支えとして持ち続け、自己と他を互いに尊重し合う事により各々の安心を得る事が出来るようになる。

本葬、晋山を終えたばかりの若輩の身である私が、歴代住職が築き上げ、守り続けてきた西園寺の今後の教化、護持をいかにして行っていくべきかと考えている今、「同事」の教えを常に心に持ち続け、菩薩の四摂法、そして渡辺祥文老師がおっしゃっておられた「相手は菩薩である」というお言

葉を心の支柱として、これからの檀信徒の教化に務めてまいりたいと今まで以上に心に刻んだ次第であります。

中国祖師仏教と 曹洞禅を受講して



第二十一教区 大満寺住職
佐藤透光

講師の何燕生（カエンセイ）先生は『正法眼蔵』を中国語に翻訳し紹介された方で、中国の仏教界に多くの人脈が在り、現在の状況を詳しく解説いただきました。講義は今後の日本がアジアの中での仏教を見通す上で大変有効で興味深く聴くことができました。

講義の内容は現在中国の一般の人が仏教を含む宗教を生活の中に取り入れ始めている。いまの国民の経済力下で、ある一時期衰退した宗教が、歴史的に重要な史跡や寺院が復興している。一般人はお祈りや供養で参詣に訪れており、寺は自らが歴史的な価値をまた取り戻すべく努力し始めている状況

にあるとのことでした。

また仏教の「宗派」も同じく再興しており、何先生の翻訳本も昨年再版し発行も渴望されていたとのこと。宗派単位に教義が研究されつつあり、曹洞宗も日本から逆輸入の形で勉強しているという。しかし日本仏教をそのまま取り入れるということでは無く、寺院では僧は戒を保っている面はその面は無いと云うことらしい。更には取り入れられ方として①実践レベルの取り組み。②思想レベルの取り組みの実例を紹介いただきました。驚いたのは①について、実際に曹洞禅をする団体を創始してた洪氏という人物を紹介した。師は宗門の師家原田雪溪老師（小浜市発心寺）の印可を受け、活動は講演と撰心を中心に展開している。②については、道元禅を哲学として捉えて、死生学哲学者ハイデッカーの思想等の面から研究を始めている。何先生曰く「正法眼蔵の文は漢文で書かれているので中国人は理解し易い」とのこと。しかし①②も台湾で活動している洪師の影響が今後中国へ拡散していくであろうとの事である。日本とは比較にならない程の「量」でそれが「庄」となる中国。現在は未成熟な状況ではあるが、時間の経過と共に成熟していくことになることも想像の外では無いであろう。

そのことを考慮し受講して想うには外国人が「禅」に興味を持つのは今に始まったことではないが、現在は当然の如くに僧堂に外国人雲水が少なからず居ることも事実であります。

私は先日大乗寺の東老師の法話を拝聴する機会があった。師曰く「禅の隆盛が中国や欧州で起こり、中心が彼の国に移るのも遠からずあり得るのかもしれない」と。そう考えても不思議では無いし、これも転法輪なのかもしれないと感慨を深く致しました。



布教師協議会コーナー

「新たな時代に向けて」

曹洞宗宮城県宗務所

布教師協議会

会長 関

弘 爾

記憶を失った男はどこにも行けないという話がありました。同じように、過去を捨てれば未来を持ってない。過去の積み重ねに未来がある。未来とはどんな過去があったかそれが未来となる。だから忘れてはならないという、そこに人間の信仰を感じます。

原田甲斐の母の墓を見に行った方の話を聞きました。原田甲斐は寛文事件で逆賊として亡くなります。伊達家の重臣の御母堂であっても墓石は建てられず、現在は巨理の廃寺となった跡地に自然石を墓として置いてあるという事です。その自然石の墓を見て感じたこと「なんか寂しく涙が出そうだった」と語ります。自然石の墓が、かえって悲しみを感じさせてしまうということです。

明治になると巨理の伊達は北海道に移り、一村と同時にお寺も無くなる。廃寺跡地にはお墓だけが残る。自然石の墓には、我が子の無罪を信じて眠る母がいます。本当に原田甲斐は逆賊だったのか、もしかしたら時代の流れの犠牲者ではないかと感じます。

時は流れても私たちは脈々と続いた命によって生かされております、人としての繋がりに想いを寄せ、その思いを繋いで行く事が大切です。子を思う親であり、母の心を感じるから無くしてはならない。人を信じるから遺す。心を繋ぐ。それが心より所となります。

新たな時代に向かうとは、捨てるではなく、忘れないことです。

後世になり、母親の墓石の傍らに墓を護るように地蔵様が建てられます。人間としての優しさと願いを忘れてはならない。お寺は常にタイムカプセルであると感じるのです。

(第十一教区 功岳寺住職)

宗務所護持会本山研修に参加して

平成二十九年十月十六日〜十月十八日 大本山總持寺



第四教区 吉祥寺檀徒 高橋 彰夫

今回の本山研修への参加が決まってから個人的に大変楽しみにしていました。というのも機会があればまた本山に行きたいと思いつつも今回の大本山總持寺参拝が二十年振りと本当に久しぶりで待ちに待ったという思いだったからです。今回は大相堂に缶詰になり瑞応殿に雑魚寝しながらの六日間の修行で慣れるまで大変な思いをしました。それがそれ以上に得たものは多く貴重な体験でした。時が経つにつれ本山で学んだ事や経験した事が今の自分にとって大事な財産になっており、機会があれば



また行きたいとずっと思っていたので良い機会に恵まれて本当に幸運でした。十月中旬としては肌寒い気温で雨の中での研修となりました。久々の参拝も休む間もなく開講式、薬石、法話、入浴、九時就寝と慌ただしく進み思い出に更ける暇もなく初日は終了。二日目は三時半起床で先ずは暁天坐禅を体験、心地よい静寂を感じるも考え事ばかりで無になる事の難しさを改めて実感しました。朝課では修行僧のきびきびした動作や雲水の独特の作法を拝見し懐かしく思うとともに修行の厳しさが感じ取れ凛とした気持ちになり、毎日だらだら過ごしている自分の甘さを再認識し反省も出来ました。今後は研修の教えを生かした生活を送っていきたいと思います。参拝後は待ちに待った般若湯解禁、母畑温泉を目指すバスの中から宴会開始で大いに盛り上がりました。楽しい研修になりお世話になりました皆様に感謝申し上げます。



第二十一教区 見松寺檀徒 白鳥 悟

宗務所から宗務所長他三名、第一教区から第二十一教区二十八カ寺四十二名総勢四十八名で、曇り模様の中八時十分仙台台駅からバスにて大本山總持寺へ。車内で、小野崎所長より仏教、曹洞宗の成り立ちから現代までの歴史、さらに仏教の心を築く教え等々についてお話を頂き、研修に向けて改めて気の引き締まる思いをした。



十五時三十分到着。十六時三十分より、花和布教教化参禅室長による法話を拝聴。始めに、人権・平和・環境についてのお話、人権は命の尊厳そのもの、誰もが平等であり差別を侵してはならないものであること。さらに、瑩山禅師の「大悲の誓願」が、峨山禅師へと、そして祖師方へと「相承」されてきたからこそ、今私たちがあるということ、改めて修証義の意味を理解できた。

翌朝三時三十分振鈴、暁天坐禅、大祖堂にて総供養、朝課、御開山拜登を終えたときには、心身ともに清々しく、喜びと感謝の念で一杯になった。引き続き諸堂拝観、小食、閉講式、写真撮影、八時五十分出発。引き続き宗務庁視察、後、

和やかな雰囲気の中昼食を終え一路母畑温泉へ。大いに懇親を深めた忘れられない一夜となった。

最終日、月窓禅師より開創された、六百有余年の歴史を持つ長祿寺（須賀川市）で研修（接待に感謝）を修了。

最後に、このような機会とご縁をいただけたことに感謝するとともに、慈恩に報いるためにも日々の行事を大切にしようという決意を新たにしました。



徒弟研修会

平成二十九年八月二十三日

於 宮城県宗務所

徒弟研修会に

初めて参加して



第六教区

西圓寺徒弟 石山寛尚

ぼくは、宮城県角田市の西



圓寺の長男です。弟と二人の兄弟です。

お父さんにすすめられて、研修会に行きました。最初はいいかまよいました。でも、行ったら楽しかったです。

初めて研修会に行ったから最初はしんぱいだったけどみんなやさしくしてもらってよかったです。ゲームをしたりおしゃや様のことをまなんだりしてとても楽しかったです。

とても楽しい一日になりました。

徒弟研修会で感じたこと



第七教区

法圓寺徒弟 根来悠賢

徒弟研修会には去年に続いて二回目の参加でした。去年はきんちょうであまり理かいできませんでした。二回目の今年は

少し内ようがわかってきました。また、ゲームも楽しかったです。特にカンをたおすゲームではぼく一人だけがたおすことができうれしかったです。来年もまた参加したいと思いました。



徒弟研修会に参加して



第十九教区

大雄寺徒弟 金子蒼史

ぼくは今回で三回目の参加に

なります。坐禅はお寺の坐禅会でやっているのでももいたくなかったです。なぞり書きのときはうまくなされてうれしかったです。次に和尚さんのげきをみました。いじめは良くないことを学びました。お昼ごはんもおいしかったです。一日でいろんな事を学べるので来年も行きたいです。



中国祖師仏教祖蹟研修



駒澤大学名誉教授 石井修道

二〇一七年九月四〜八日の間、曹洞宗宮城県宗務所の企画する「黄梅・安国寺・薬山寺を巡る五日間」に、諸縁あつて同行する機会を与えていただいた。既に「日本曹洞宗洞源院住持小野崎秀通長老一行、黄梅五祖寺を



参訪」で、その時の様子は写真入りのネットで見ることできる時代を迎えている。

元のご縁は、二〇一三年三月二十三日に、私は何燕生・小野崎秀通・花和浩明・伊達廣二の諸氏と近代の中国の高僧浄慧法師を四祖寺に訪問した。その浄慧法師が、四月二十日に八十一歳で遷化されたことを後に知り驚愕した。五人の訪中の目的は、芙蓉道楷が住した随州大洪山慈恩寺の十月二十七日の落慶法要



の協力の為の下準備であった。

今回の一行が九月四日に武漢に到着すると、黄冈安国寺の崇諦方丈の歓迎を受け、ホテルに宿泊した。翌日は黄梅県の四祖寺・五祖寺を参観した。四祖道信の活躍は禅宗教団の実質的な萌芽であり、五祖弘忍は南宗禅の六祖慧能を生んだ祖師である。四祖寺の明基方丈、五祖寺の正慈方丈には熱烈的な歓迎を受けた。六祖慧能(当時の盧行者)の誕生は、神秀上座の「身は是れ菩提樹、心は明鏡の台の如し。時に勤めて払拭し、塵埃を染ま

しむること莫かれ」の偈に対して、六祖慧能の「菩提本樹無し、明鏡も亦た台にあらず。本来無一物、何れの処にか塵埃有らん」の偈が、心偈に争いで、六祖に認められるなじみの話である。

私が一九八六年に訪問した時には、伽藍の全く無かった四祖寺が、見事に復興していて、その山門で記念写真を撮り、五祖寺では六祖慧能の行状を見学し、裏山の大満弘忍禅師法雨の墓塔を参拝した。その日は黄梅に一泊した。

六日は前日来た武漢へ的高速道路を戻り、黄冈の安国寺に立ち寄った。安国寺は唐の顕慶二年(六五八)に創建された古刹





で、住持は崇諦法師である。法師は武漢大学で学び、日本語が話せ、四祖寺の監院であった当時から親しくして頂いている方である。現在は安国寺復興責任者として、広大な伽藍の復興が進められていた。寺内に七層の青雲塔（文峰塔とも）があり、この塔をバックに記念写真を撮った。崇諦方丈の案内で蘇軾（東坡）の赤壁の記念公園を案内していただいた。その日は湖南省澧県に移動して一泊した。

七日は今回の訪中の最大の目

地的の薬山寺である。明影方丈に迎えられて、薬山寺の伽藍を参観し、薬山惟儼禅師の化城の墓塔にお参りをした。目下、大伽藍の復興が進行中である。今回は昨年六月十日に落慶法要が行われた薬山寺竹林禅院の参観である。名前の通り竹林に覆われ、坐禅堂を備えた別天地であった。

郡山女子大学の何燕生先生の関係も大きいと思われるが、この宮城県宗務所ほど中国寺院との友好関係を重ねているところは特筆にあたいする。



おすすめの本Ⅰ

第十九教区

正福寺 住職 三宅 泰宏

東北のしきたり

鈴木士郎・岡島慎二著

発行/マイクロマガジン社



この度、私がおすすめさせていた本は、「東北のしきたり」（著者 鈴木士郎・岡島慎二、発行 マイクロマガジン社）です。

本書では、日本の中でも独特のしきたりを持つ東北地方を、歴史・季節・冠婚葬祭などを通して考察され、「東北のしきたりと歴史」「正月・お祭り・季節行持」「結婚」「葬祭」の全五章から構成されています。

特に、第五章の「葬祭」では、東北では主流の「前火葬」の風習や、死亡広告、通夜葬儀のしきたり等が書かれています。

しきたりには神道由来と仏教由来のものがあり、同じ仏教でも宗派によっても異なります。私たちが曹洞宗宗侶には必ずしも馴染めないものもありませんが、東北のしきたりの多さ・多様性を知るという意味で、興味深く読める一冊であると思います。

おすすめの本Ⅱ

第二十教区

祥雲寺 住職 鮎田 弘文

反応しない練習

草薙龍瞬著 発行/中経出版



「反応しない練習」著者 草薙龍瞬さんの本を紹介致します。題名の下に「あらゆる悩みが消えていくブツダの超・合理的な考え方」とあります。悩み・不安・ストレスなどは様々な妄想への心の無駄な反応という事で話は始まります。四聖諦、八正道、慈悲喜捨の教えを基に、日常に活かす方法がわかりやすく書かれています。禅僧の生活も例にあり、私達もこの本には反応するところが大きいと思います。私もこの本を読んで心が軽くなり、頭がすっきりしました。坐禅でこうなるべきとはわかってはいるのですが…。

宮城県宗教法人連絡協議会 (宮宗連)

小野崎秀通会長就任二年目の本年度研修会は、昨年十一月九日、浄土宗担当により、昨年度同様、仙台市新寺愚鈍院様を会場に「平和と復興への祈り」を行い、特別講演として宮城県警本部 生活安全企画課 犯罪抑止対策係 堀籠 仁氏による「振り込め詐欺被害防止策について」本県における犯罪発生件数、被害状況、被害に遭わないために等の講演が行われ宗門より二十九名が参加。



又、研修旅行は臨済宗妙心寺派が担当「新潟 国上寺と良寛の里を巡る旅」を十一月一日より一泊二日にて開催、国上寺・五合庵・弥彦神社・良寛記念館等を見学参拝、宗門より会長の小野崎所長を含め四名が参加。



「精進料理」

大根と秋ナスの

ミルフィーユ

第十四教区

宗恵寺

副住職

長尾靖樹

【材料】二人分

- 大根……輪切り4枚(1cm幅)
- 秋ナス……輪切り4枚(5mm幅)
- 春菊……一束
- 昆布だし……適量
- 蓮根……輪切り2枚(3mm幅)
- さつまいも……輪切り2枚(3mm幅)
- 塩……少々
- コーンスターチ……適量
- 米……少々
- 薄口醤油……適量

【作り方】

1 輪切りにした大根を型抜きして面取りする。
(ピーラーでもよい)
米と一緒に一度炊く。その後昆布だしに薄口醤油を入れ再度炊く。



2 秋ナス・蓮根・さつまいもは素揚げにして塩を振る。



3 春菊をボイルして冷水につけ、色が決まったら大根を炊いた煮汁と共にミキサーにかける。ザルでこして加熱し、水で溶いたコーンスターチでのばす。

4 大根と大根の間に素揚げしたナスを挟み、春菊ソースをかけ、上にさつまいもと蓮根をのせる。



駐車場工事

宗務所建設より二十年以上が経過したこと、また東日本大震災により陥没した箇所があることにより、平成二十九年九月十三日より駐車場舗装改修等工事を行いました。併せて塀の塗り直しも行いました。施工業者は宗務所建設業者である松井建設(株)に選定し施工しました。資金については特別会計の営繕費より総額七、一一七、二〇〇円を支出しました。敷地面積に制限があるので駐車台数は変わりませんが、車止めを少し壁側に寄せましたので駐車がしやすくなっ



たと思います。年数経過にともない修繕箇所が生じて来ると予想されますので、今後とも皆様の御理解を賜りますようお願い申し上げます。御報告させて頂きま

第十三教区

長谷寺沿革



遮那山 長谷寺住職 鈴木 義隆

表紙写真説明

遮那山長谷寺は、その昔、天台宗の寺院として、源氏の流れを汲み、奥州征討による多くの魂の鎮魂のため、現在の地より直線で約三〇〇メートル南側の地にあつたとされています。現在でもその地は「古堂」といわれ、地域の人々に親しまれ、生活の中にその歴史を残しています。その為、山号の「遮那山」の遮那とは、義経の幼名である「遮那王丸」からのものとされているのです。

現在の地に移転し、曹洞宗に改めたのは、一五九〇年頃の大火での消失がきっかけとされ、岩手県奥州市、正法寺第十世の源庵良悦大和尚によるものであります。

御本尊は、県文化財の指定を受けている、青銅製で鎌倉時代作の十一面観音菩薩さまで、菩薩さまの意味あいの通り、「七種類の菓子」をお供えすると願いを叶えて

くれるという評判があり、厚く信仰を集めています。境内には三〇〇年(推定)を越える、杉の木が三本と、石巻市指定の桜(千葉大学の先生によると、山桜ではなく蝦夷桜とのこと)が地域の人々には、「種まき桜」といわれて親しまれています。また、檀信徒の方のご好意により、福島・三春の枝垂れ桜からの接ぎ木による枝垂れ桜二十本が境内を取り囲み、春にはピンク一色になります。墓地内には石巻市指定の「ミシン堀」の金山があります。

山門は、檀信徒の皆様のご協力により平成十二年に建立した八脚仁王門です。当山は檀信徒の皆様、信仰心が非常に厚く、ありがたいからご本尊様や、種まき桜のように、親しまれる寺でありたいと思っております。

新命住職

第一教区 4番
 圓福寺 三田村秀範師 29・6・15
 第十四教区 361番
 長承寺 田村 啓峻師 29・7・21

結制修行

(一層の弁道精進を祈ります)

第十四教区 356番 長照寺
 (平成29 夏・後・初会)
 法幢師 齋藤 昭道師
 首座 齋藤 昭典 兄
 第十二教区 344番 龍澤寺
 (平成29 冬・前・再会)
 法幢師 山脇裕三
 首座 山脇真瑞
 第九教区 253番 桂雲寺
 (平成29 冬・前・初会)
 法幢師 花山智信
 首座 花山智成
 第六教区 138番 西圓寺
 (平成29 冬・前・初会)
 法幢師 石龍英紀
 首座 石龍文啓
 第二十一教区 71番 光西寺
 (平成29 冬・前・初会)
 法幢師 菅原純孝
 首座 永濱賢道

第九教区 248番 桃源院

(平成29 冬・前・再会)

法幢師 奥野誠也

首座 奥野健也

第一教区 84番 地福寺

(平成29 冬・前・初会)

法幢師 酒井俊克

首座 大槻芳道

第十五教区 388番 明耕院

(平成29 冬・前・初会)

法幢師 佐藤博童

首座 高野賢幸

第九教区 228番 瑞川寺

(平成29 冬・前・再会)

法幢師 木村謙文

首座 木村謙亨

遷化

(謹んで弔意を表します)

第十八教区 461番 29・4・30

洞松院東堂 名取 章一師 83歳

第五教区 127番 29・7・4

龍島院東堂 丹羽 道博師 92歳

第十五教区 380番 29・9・9

長観寺東堂 小松 孝一師 87歳

逝去

(謹んで弔意を表します)

第六教区 146番 29・4・11

福應寺寺族 佐藤 克子様 98歳

第六教区 139番 29・5・29

瑞雲寺寺族 村上 淑子様 97歳

第二教区 26番 29・7・1

金勝寺寺族 澁谷 はな様 98歳

第七教区 182番 29・8・10

威徳寺寺族 児玉 艶子様 93歳

住所変更について

住所変更の報告がありましたので、宜しくお願い致します。

第四教区 112番 法雲寺

旧 宮城県名取市杉ヶ袋字尻田村67

新 宮城県名取市杉ヶ袋字横手44-1

第十三教区 310番 洞福寺

旧 石巻市谷川浜中井道7

新 石巻市谷川浜風越山1-2

曹洞宗宮城県宗務所梅花講 指導者養成所

第二十期生募集について

1、期間

平成三十年四月

平成三十二年三月

年十回(初級・上級ともに、二ヶ月二十回づつ)

2、資格

初級：①宗門僧籍を有する宗侶、及びその寺族(寺族登録済が望ましい)で梅花流詠讃歌を通して宗門の布教、教化に寄与せんと欲する方。

②初心者であること。(助教・補教を取得した方も含む)

上級：五級師範・五級詠範以上で、上級からの受講を希望する方。

※現在初級に在籍されている方は、自動的に進級いたしますので、申し込みは不要です。

3、会費 年会費三万円 ※お申しいただきました方には、締切の後、会費振込用紙と日程等詳細を郵送いたします。

4、定員 各課程二十名

5、締切 平成三十年三月九日

6、申込 十二月発送

宮宗梅発第一五七号をご確認下さい。

お問い合わせください。